

令和2年度 第1回 広島県立大崎海星高等学校活性化地域協議会 議事要旨

【日 時】 令和2年7月29日(水) 15:00~16:20

【場 所】 広島県立大崎海星高等学校

【出席者】 (敬称略, 50音順)

伊場田 真彦, 梅田 敬司, 大久保 信行, 梶村 隆, 越田 賢一, 小林 弘志, 高田 幸典,
取釜 宏行, 西田 光也, 松本 達彦 (委員10名), 大原 隆 (県教育委員会事務局1名)

【議事概要】

1 開 会

- (1) 校長挨拶
- (2) 委員紹介
- (3) 会長挨拶



2 説 明 「高校魅力化」の取組について

- (1) 「オープンスクール」では、地元の中学校生だけでなく、県内外の中学生も参加した。
- (2) 「県外生への広報活動・学校紹介(6月15日~7月18日)」を、オンラインで実施した。延べ26名が参加した。今後もコンスタントに、オンラインでの説明会を実施する予定である。
- (3) 「地域みらい留学(7月25日, 26日)」は、オンラインで実施し、延べ72名が参加した。
- (4) 「みりょくゆうびん局」の活動では、本校のPR動画を作成し、公開した。
- (5) 「公営塾」では、休校期間中も充実した課題をオンラインで配信した。また、遠方の高校生や外部人材との対話の場を、オンラインで複数回設定できた。
- (6) 今年度も、商工会主催の地域を知ることコンセプトとした「上島ジン大学」や、社会や働くとはどのようなことかを地域の人材に尋ねる「働くを考えるフェア」を計画し、地域と連携しながらのキャリア教育を行っていききたい。
- (7) 情報誌「海星だより」を随時発行し、地域の店舗等に掲示している。
- (8) 「島の仕事図鑑」を題材とした書籍が7月31日に発売される。本校の取組をさらに全国へアピールしていききたい。

3 協 議 「活性化の方策」について

- (1) 地元の中学生の進学率低迷が課題である。地元の中学生にとって、分かり易い指標となる実績を示すことが必要である。
- (2) 「みりょくゆうびん局」部員のうち、県外生の割合が8割となっている。地元出身生徒に郷土愛を育めるような教育がさらに期待される。
- (3) 昨今の状況の中でICT活用が叫ばれているが、少人数だからこそきめ細かな教育が実現できるという実績を作り上げていくことが必要である。
- (4) 何を以て「魅力化」と捉えるかは、「子どもたちの姿」である。地域からみて「魅力的」に見える生徒の姿に近づけることで、地元出身の生徒の進学率向上につながるはずである。

4 まとめ

5 閉 会

会長挨拶

